

## 経営理念

心の中に心を持ち、人に心運び心伝え、五つのわ（和、輪、我、笑、話）の調和を図る

## 事業方針

1. 施設の社会化に努める
2. 心と心が触れあう信頼の場に努める
3. 豊かで安らぎのある健やかな生活が保障されるよう努める
4. 老人福祉施設として生活援助機能の強化に努める
5. 自立支援機能の強化に努める

## 行動指針(ケア方針)

### 4H・4Cの実践

Heart	心を磨く	Communication	情報を的確に捉え伝える
Head	知識・理解を磨く	Contact	接触・接近を図る
Hand	技法を磨く	Conference	会議・協議・相談を図る
Health	健康を磨く	Care	心を配り・心を寄せる・見守を図る

## 中期目標（3年）2020.4.1～2023.3.31

- ・ 社会環境変化へのソーシャル機能展開（制度政策の地域社会に反映する機能の取り組み）
- ・ サービス開発の取り組み（地域社会への支援と連携、専門機関との橋渡し機能の構築）
- ・ 事業、サービス運営展開力構築の取り組み（チーム＜多職種と個人＞の向上）

## 長期目標（10年）2017.4.1～2027.3.31

- ・ 安全、衛生、防災対策の整理・整備（自然災害、感染症、事故対策）
- ・ トータルコスト整理、管理対策整備（社会保障制度改正への対応）
- ・ 介護サービス機能の整理・整備（医療・保健・福祉・介護と地域社会との連携）

## 2021年度基本方針

互いにととのう（整う・調う・斉う）関わりをする（4H・4Cの実践）

- |    |   |                         |
|----|---|-------------------------|
| 整う | — | ものごとを正しい状態に直す関わりすること    |
| 調う | — | ものごとの準備をととのえる関わりすること    |
| 斉う | — | ものごとの関りを互いにととのえる状態にすること |

## 社会福祉法人報徳会 重点施策

- \* 基盤になる機能・体制構築の取り組み
  - ・ 事業組織力の醸成 ・ひとりひとりの専門性（社会性）への取り組み
  - ・ 事業及びサービスの構造構成を機能として支援する取り組み
- \* サービスの自己管理対策
  - ・ サービス自己評価、他サービス機関からの事業評価（ひと・もの・サービス・じかん）検証
  - ・ サービス標準化（全体・部門）と専門性並びにサービスの整合性への取り組み
- \* 情報共有
  - ・ 各サービス連携のための記録様式類共通化、情報連動化の実践
  - ・ 業務連携のためのサービス項目の整理と整備
- \* 実施対策の取り組み
  - ・ 感染症対策、防災管理、リスクマネジメントに関わるBCP整理
  - ・ 地域密着型介護サービス外部評価、介護サービス情報公表制度、福祉サービスの第三者評価、認証評価活用による外部公開の取り組み
  - ・ 内部監査による運営基準との整合

**重点目標** 生活の中で関わる介護・支援を地域社会に理解と共感を得られるサービスとして届ける

**重点事項** 関わりをてい（程・綴・訂）するサービス提供する

## ＜法人事務局 ・ 事業支援機関＞

### ＜総務グループ＞

#### 重点目標

- ・各事業部と互いに支えあいながら、計画的に業務を進め、申請、期日漏れのない運営をする
- ・職員が健康で安全な環境と働きやすい職場へととのえる

#### 重点事項

- ・業務の簡素化、効率化を図り、柔軟に対応できるよう業務管理をする
- ・加算の算定要件の整合性の確認のため、毎月の労働時間等の管理を徹底する
- ・健康診断、腰痛検査の実施、また、施設内外の労働環境を点検する
- ・職員全員が年次有給休暇を計画的に取得するため、年休の使用状況を管理する

#### 業務運営

会計経理業務、庶務業務、人事労務業務の運営管理

理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会、地域密着型サービス運営推進会議、第三者委員会

総務グループ会議

### ＜給食グループ＞

#### 重点目標

・一人ひとりが主体性を持ちグループ全体で栄養ケアを実施し、利用者の状態に応じた栄養管理を計画的に行う

#### 重点事項

- ・グループ全体で日々の食事観察の必要性を理解し、どのように利用者の食事に反映されているかを知る
- ・低栄養のリスクが高い方へ栄養状態に合わせた食事（食材）の選択肢をつくり、多職種で早期に対応できる体制を構築する

#### 地域交流、施設機能開放

栄養士給食施設実習

#### 業務運営

栄養管理業務、衛生管理業務、調理管理業務

給食グループ会議、サービス担当者会議（カンファレンス）

## 黒石特別養護老人ホーム

### ＜特養事業部 介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業＞

#### 重点目標

・相手の立場を考え、相手の気持ちを感じ取れる心を持ち、利用者が満足感を得られるケア提供を具現化できるチームを作る

#### 重点事項

- ・病歴・内服薬を整理し、利用者の身体状態の把握に努め、多職種が協働してリスクを早期発見する
- ・職員同士が意見を出し合い、物事を判断・修正を行い、当事者意識を持って業務運営ができる

#### 行事、日常生活支援

行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会

活動 ドライブ 運動会 よされ・ねぷた 鏡餅づくり 節分 雪だるま作り

#### 地域交流、施設機能開放

ボランティア喫茶、訪問理容、訪問販売、介護福祉士実習、社会福祉士施設実習

インターシップ、職場体験など

#### 業務運営

特養事業部会議、介護グループ会議、サービス担当者会議（カンファレンス）

#### その他

健康管理（体重測定）（健康診断、結核検診、予防接種）要介護認定調査 長谷川式スケール調査  
日常生活自立度調査（障害・認知症高齢者） 各アセスメント・モニタリング

## 黒石デイサービスセンター

### <在宅事業部 通所・訪問介護・介護予防・日常生活総合事業・福祉事業>

#### 重点目標

- ・利用者ひとりひとりが在宅生活を継続できる為に家族と共に支える

#### 重点事項

- ・栄養、口腔、生活機能の維持向上を実践から評価、改善に繋げる

#### 行事、日常生活支援

行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会

活動 春の運動会、七夕会、縁日会、秋の運動会、忘年会、新年餅つき、節分（豆まき）、ひな祭り、のど自慢大会

#### 地域交流、施設機能開放

ボランティア喫茶、散髪ボランティア、介護福祉士実習、社会福祉士施設実習  
インターシップ、職場体験など

#### 業務運営

在宅事業部会議、介護グループ会議、サービス担当者会議（カンファレンス）

#### その他

健康管理（体重測定） 長谷川式スケール調査 日常生活自立度調査（障害・認知症高齢者）  
機能訓練・日常生活向上計画見直し 各アセスメント・モニタリング

## 黒石在宅介護支援センター

### <総合ケアマネジメント機関 居宅介護支援・介護予防ケアマネジメント事業>

### <地域包括ランチ機関>

#### 重点目標

- ・介護保険制度、他制度（生活保護）、インフォーマルサービスを活用しながら、地域住民の支援をすることで、安心できる生活へ繋げる

#### 重点事項

- ・医療制度と生活保護に関連する情報整理と橋渡し機能を習得する。
- ・ケアマネジメント力を互いに高め合いながら、マネジメントの一連の流れについて標準化を図る

#### 地域交流、施設機能開放

介護支援専門員実務講習受講者等実習、社会福祉士実習、担当地区民生児童委員定期交流、  
サロン運営支援業務運

介護予防・日常生活支援総合事業

（介護予防支援、介護予防ケアマネジメント、介護予防・生活支援サービス支援）

包括的支援事業

（総合相談、権利擁護、黒石市地域包括支援センター運営協議会）（認知症総合支援、認知症集中  
支援チーム、地域ケア会議推進事業「定例勉強会」「連携会議」「ケース検討会議」）

一般介護予防（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）、（転倒骨折予防、認知症予防教室）

#### 黒石市任意事業

認知症高齢者見守事業、在宅要介護高齢者紙おむつ支給券交付、成年後見制度利用支援、福祉用具・  
住宅改修支援、認知症サポーター養成、地域自立生活支援）

要介護・要支援認定・基本チェックリスト関連（認定調査、認定管理）

介護予防サービス計画、介護予防ケアマネジメントの業務（予防給付、総合事業）

#### 居宅支援関連

（相談受付・実態調査業務、調整業務、各アセスメント・モニタリング、ケアプラン管理・付帯管理  
手続業務、サービス担当者会議（カンファレンス））

#### その他

総合相談窓口（医療、保健、福祉サービス連絡調整）、地域ネットワークの構築・強化、地域密着  
型サービス運営推進会議、居宅機関会議、総合ケアマネジメント機関会議、他法人居宅介護支援事  
業所との共同事例検討会

## 黒石ケアサポートセンター

### <地域事業部 認知共同生活介護・小規模多機能事業>

#### 重点目標

・認知症ケアへ根拠に基づいた効果的なアプローチを行い、生活の維持、回復へ繋げ、利用者、家族の想いや生活を紡ぐ支援をする

#### 重点事項

・認知症の評価指標をもちい見える化し、PDCA サイクルの仕組み化に沿ったチームでの実践に向け、一人ひとりがアセスメント視点を活かし、仮説を立て、チームでのケアをととのえる関わりをする

・認知症の人と家族を支える基本姿勢を身につけ、家族の個々の声に耳をかたむけ関係性を築く  
行事、日常生活支援

行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会

活動 お菓子作り、お花見、花・畑作り、「わ」の食堂、運動会、ドライブ、夏祭り、  
ねふた・よされ見学、紅葉ドライブ、餅つき、節分、雪だるま作り

#### 地域交流、施設機能開放

ボランティア喫茶、認知症介護実践者・リーダー・開設者・管理者研修施設実習

介護福祉士実習、社会福祉士施設実習、看護実習、インターシップ、職場体験など

#### 業務運営

地域事業部会議 介護グループ会議 サービス担当者会議（カンファレンス） 運営推進会議

#### その他

健康管理(体重測定) (健康診断、結核検診、予防接種) 要介護認定調査 長谷川式スケール調査

日常生活自立度調査(障害・認知症高齢者) 各アセスメント・モニタリング

## 養護老人ホーム景楓荘

### <養護事業部 養護・特定施設入居事業>

#### 重点目標

・利用者の方々が地域社会や集団の中で日常生活行動を発揮できる環境を整える

#### 重点事項

・利用者の社会性の保持できるように身体面、精神面へのアプローチと、利用者地域の方々との出会いの場を作れるような働きかけを行う

・利用者へ思いやりのある声掛けと相手の立場に立った関わりで、お互いが振り返る場面を作り、実践できるチームを創る

#### 行事、日常生活支援

行事 納涼祭、敬老会、クリスマス会、誕生会、慰霊祭、墓参り

活動 ドライブ(花見・紅葉)、体力測定(年2回)、ねふた・よされ見学、  
餅つき、節分、花・畑作り

音楽、手工芸、絵手紙、書道クラブ、カラオケクラブ、すこやか体操、大相撲星取り

#### 地域交流、施設機能開放

ボランティア喫茶、訪問理容、訪問販売、介護福祉士実習、社会福祉士施設実習

インターシップ、職場体験など

#### 業務運営

養護業部会議、介護グループ会議、サービス担当者会議（カンファレンス）

#### その他

健康管理(体重測定) (健康診断、結核検診、予防接種) 要介護認定調査 長谷川式スケール調査

日常生活自立度調査(障害・認知症高齢者) 各アセスメント・モニタリング

## 委員会・職域・機関・プロジェクト

### < リスクマネジメント委員会 >

#### 1. 構成メンバー

船水亮徳 嘉瀬友仁 奥瀬美智子 岩崎めぐみ

#### 2. 目的

利用者が安全に生活できるよう、事故発生の防止及び発生時対応の指針に基づき、法人全体での共通施策を策定する

ケアサービスにおけるリスクマネジメントの意義について理解を深め、事故ヒヤリハットの検証方法を確立させ、SHELLを活用して多方面での視点を持てるよう啓発を行い、事故防止・再発防止に取り組む

#### 3. 期間 2021年4月1日～2022年3月31日

#### 4. 内容

- ①事故対策防止の取り組み
- ②内部研修（年2回）の実施
- ③苦情対応（お客様の声）の取組
- ④第三者委員会（年2回）開催
- ⑤身体拘束、虐待に関する取組（3ヶ月に1回の研修、実地調査実施）
- ⑥看取りケアに係る取組（3ヶ月に1回、実施状況の確認実施）
- ⑦安全対策実施体制の取組

#### 5. 成果

- ・事故ヒヤリハット検証チャート運用評価表を検証までの流れについて修正する。また、事故防止対策の視点を養うための事例紹介、年間事故ヒヤリハット件数から事故件数統計を発信し事故防止対策の意識付けを図った。
- ・研修開催方法について、新型コロナウイルス感染予防対策として、密になることを避けWEB視聴で実施した。
- ・お客様の声の抽出をしやすくするため、総合マネジメント機関と連携し、お客様の声運用チャートの見直しをする。
- ・3ヶ月に1回の身体拘束、虐待の実地調査は、工程管理が不明確で遅れが生じる状況となった。
- ・安全対策担当者の研修への参加、リスクマネジメント委員会構成員への追加、事故防止対策上の役割の明確化として会議録を修正を図った。

#### 6. 課題

- ・事故ヒヤリハットチャートの運用のため、担当や管理の役割を明確にし、期日管理体制を構築する必要がある
- ・苦情対応に向けた取扱いや区分、記録の再検討が必要
- ・看取りケアに係る記録様式類、指針や看取りに関する知識を広げ、理解しチェックすることが必要
- ・安全対策担当者と協同して事故防止対策を各サービス、環境チェックの改善に向けた取組が必要

#### 7. 事業計画

- ・事故対策防止の取り組み及び研修の実施（年2回）
- ・身体拘束に関する取組み及び研修の実施（3ヶ月に一回）
- ・お客様の声の運用
- ・第三者委員会（2回）開催
- ・看取り介護状況の運用チェックと共通理解への取り組み
- ・安全対策実施体制の運用（2021年度法改正）

### < 感染衛生対策委員会 >

#### 1. 構成メンバー

石澤利圭 工藤晋也 佐々木明子 吹越智美

#### 2. 目的

入所者・利用者・職員の安全確保を図るため、菌を持ち込まない・広めないを全職員で徹底し、未然に防止し感染症・衛生・食中毒の予防をする。

#### 3. 期間 2021年4月1日～2022年3月31日

#### 4. 内 容

職員一人ひとりの衛生管理意識の徹底を図り、感染症の発生を防止するよう委員会活動し、専門性の高いサービスを提供する

#### 5. 成 果

①法定内施設内研修、新型コロナウイルス感染予防について、三密を避けるため動画での研修方法を取り、伝えることの過不足がない同じ内容のものを全員に提供できる点を活かし、実施を図った。

吐物処理について、手順を確認しながら全員にシミュレーションする内容とし、職員が正しい処理を行うことができるよう定期的に再確認の方法をとる。実際に嘔吐があった際、適切に吐物処理を実践できる研修になるよう毎年見直す機会が必要であると気づいた。

②定期的に新型コロナウイルス感染症初期動作訓練を実施。新型コロナウイルス感染者数が多く、実際に感染症が発症した場合に対応できるよう6月～7月、11月～12月、2月～3月と年3回実施している。感染症発生時の職員の動きを確認できるものとなった。

③新型コロナウイルス対応概要資料ファイルの整備。日頃からの感染対策と業務継続に向けた取り組みができるよう、感染発生時対応フローや洗濯、リネン交換、ゴミ出しの手順書等の作成、その他資料を見直している。

④感染衛生対策基本資料の整備。インフルエンザ、ノロウイルス、食中毒等の感染症について資料内容の不足、更新部分を確認し、追加修正後資料差替え整備する。

#### 6. 課 題

①吐物処理研修については、年度ごと感染についての情報確認など内容を見直し、毎年度実施が必要。新型コロナウイルス感染症は、施設での感染予防対策が重要であり、現在、実際に行っている感染予防対策の中から評価し、必要な情報は何かを探ったうえで、研修内容を協議していく必要がある。

②普段からの健康管理や手指消毒等の基本的な感染対策が重要であるとともに、施設関係者に新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者があった場のことを想定したシミュレーションが有用であることから、定期的な実施が必要である。

③感染衛生対策基本資料と新型コロナウイルス対応概要資料の内容も誰が見ても実際に行動できるよう今後も定期的な見直し、整備を行う必要がある。

④感染予防対策についての内容の発信や物品の準備などを進めてきたが、事業部でバラつきがないか、感染予防対策がとれているかまでのチェックが不足していたため、実際に行動できているかのチェックが必要である。

#### 7. 事業計画

①年2回施設内研修の開催

②定期的な新型コロナウイルス訓練の実施

③感染衛生対策基本資料、新型コロナウイルス対応概要資料の見直し、整備

④日々の感染対策実施のチェック

### < 研修委員会 >

#### 1. 構成メンバー

海老名みゆき 小野洋子 倉内純子 雪田栄子

#### 2. 目 的

ひとりひとりの専門性及び社会性の構築、チーム力の醸成ならびに展開力の構築、職員一人一人が果たすべき役割を理解し行動すること、そして、一定で質の良いサービス提供が展開できるよう研修・実習体系を整備し、法人全体が共通した人材育成に取り組む環境と運用を図る。

3. 期 間 2021年4月1日～2022年3月31日

#### 4. 内 容

- ・新研修体系の運用チェック機関としての調整
- ・講座全体の計画と運用チェック機関としての調整

#### 5. 成 果

##### ①研修内容の変更

コロナ禍での集合、集団で行う研修方法の見直しを図った、オンラインを活用した研修導入のため外部機関の動画配信サービスの活用に向け整備を図る。

必須の基礎研修を在職職員全員修了することができた。オリエンテーション時新任、中途採用混在しての講義となるため、動画視聴不足を補う分として、「チームとしての基礎作り」を初めの段階と

して理解してもらうこととし、「フォロワーとしての役割とは何か」を動画視聴後にグループワークで話し合い、まとめとして「フォロワーとしての役割とは何か」を説明する内容に変更整備する。また、今年度から認知症介護基礎研修をオリエンテーションに組み入れている。

#### ②全体研修開催について

令和3年度より、全ての無資格者の介護職員に認知症介護基礎研修の受講が義務付けられた。(経過措置3年)厚生労働大臣が定めた基準に従い、当法人では対象者に認知症介護基礎研修をweb研修で1月に実施している。

#### ③専門講座について

実践に活かす、実務に応じた内容を保管する動画視聴の整備、準備を進めた。

#### ④人事考課制度の見直し

一般、中堅の階層別の採点をした際、隔たりが多いことが課題となっていたため、一般職にも4Cの考課内容を作成し人事考課の配点、配分を見直した。3事業部の一般、中堅で前後のテスト考課をし、運用する。

#### ⑤その他

共通研修(リスクマネジメント、感染衛生、認知症)の時間算定について、15~30分以内は業務内での実施、30~1時間以内は時間外申請内容に変更整備する。

### 6. 課題

・専門講座について、受講したいと思っているが業務が多忙である、時間の確保が難しい、研修期間が長い等が挙げられ、申請すればいつでも、どこでも、誰でも受講ができる動画視聴も活用する体制作りが必要。

### 7. 事業計画

- ・配信動画サービスを活用した研修体系の運用とチェック。
- ・介護認証制度取得に向け整備。
- ・研修体系(OJT含む)の見直し。
- ・介護認証制度取得に向け、要件の理解と整備。
- ・キャリアパス制度の再構築。

## < 職域部会 >

### 1. 構成メンバー

須藤 麻美(介護)、白鳥麻衣子(相談)、信平和香子(看護)

### 2. 目的

業務専門課題対策の協議検討、実施策定、評価検証(新しい技術、気付き気付く方法(人として))、自らの専門性、振り返り(職責)

### 3. 期間 2020年6月~2022年3月31日

### 4. 内容 現状把握、課題抽出、課題提出を通じた仕組みづくりと連携

#### (介護職域)

定期 介護基本水準の確立及びOJTによる技術指導体制の確立、介護基礎知識習得体制の確立  
不定期 レク・リハの提供状況の確認と修正、介護実習生の受入、記録の整備

#### (看護職域)

定期 看護カリキュラムの見直し、記録の整備、多職種連携  
不定期 データ整理

#### (相談支援職域)

定期 ①利用手続I~IV、②稼働率管理(ベッドコントロール)  
不定期 ③対人援助技術向上(セルフマネジメント・OJT・相談員同士の連携)  
④育成・相談援助技術・処理スキル、⑤多職種連動による記録

### 5. 成果

#### (介護)

・定期①について、食事、排泄、入浴、移乗、感染対応の技術に特化した水準(一般職、中堅職)を決定するため、既存の手順書類、介護段位制度項目を確認し、技術に関する部分をまとめ、チェック式の様式を作成、テスト評価(各事業部から対象者決め、アセッサー資格者が担当する)している。実施評価をもとに評価方法は修正なし、展開方法(セルフチェック)、展開時期を追加し人事考課とリンクできるようにする。また、キャリアパス要件Iの要件から必要な研修実施内容を確認し、a.自

身が振り返りできる、b. 一般、中堅職の技術の根拠づけとなることを目的に、アセッサー評価も追加し、評価後の振り返り研修として動画視聴研修と人事考課で自己評価とアセッサー評価の差を振り返り目標を立ててもらい、目標シートに組み入れできないか研修委員会と検討していく。

・定期②について、上記の評価を基に各事業部で基本技術・専門技術をOJTで指導、育成する体制を構築する予定であったが、様式の修正でトライアルまで実施は至らず。

・定期③項目目について、優先順位から上半期は実施できず。

・不定期④項目目について、ローテーション勤務を8時間労働体制移行後に合わせて提供時間の修正をしている（入浴、送迎）。リハレクに関しては今後の開始に併せて11月から各事業部のカリキュラムに沿って提供可能時間まとめ、修正している。

・不定期⑤項目について、東奥学園高校からの実習を養護事業部で受け入れ終了している。

・不定期⑥項目目について、ケアプランに沿った記録とモニタリングを連動し暮らしが見える記録ができるように8時間労働体制の移行に合わせて①引継ぎ、②アセスメント・モニタリングの整合性の観点から記録を整備している。個々人の技術面やカリキュラム移行後の不安定さを考慮して段階を踏んで全職域の記録を整備していく方向、まずは、看護からの指示（症状の観察を引継ぎできる記録）として提示、実施していくことと、ケア提供時間（入浴、排泄、食事、口腔ケア、水分管理）のケアサービスを実施した時間で記録するように統一している。

10月から看護の記録の仕方を健康管理ができる記録として看護からの指示や看護への報告が見える記録を目指したが定着までは至らず、10月から始まった8時間労働体制移行後の1月から順次、介護職への記録の整備（主に申し送りや必要な記録の仕方）を図る予定であったが看護の記録が定着されず介護の記録の質上げまでは図れず。日誌の押印忘れ多く記録としての責任を持てるように押印のデジタル化を進める。また、繋げられるケアを実施できるように緊急時の対応のフロー図を参考とし現場へ活用する。電子印検印方法の変更開始に向け連絡文書、日誌欄の位置の作成確認、押印の仕方の手順書作成、日誌の項目の取り扱いの再確認を提示、ケース担当が行うアセスメントになる記録の確保について発信準備、デジタル印の開始を進めていく。

（相談）

①各手続きに係る確認表に基づき、運用が図れた。また、次年度介護報酬改定に係る加算取得に対して、取得する事業部の取り組みにより、確認表の追加修正まで行うことができた。

②各事業所の相談職が、新型コロナウイルス感染症による影響もありながら、稼働率維持、急激な下降とならないよう、自事業部の稼働率を管理する働きかけを続けてきた。

③自己理解ツールの準備に大幅に時間を要し、下半期前半でようやく自己理解ツールを用いセルフで行うレベルチェック、他相談職の技術展開を巡回型で実践することができた。職域内全体では取り組みにバラつきがみられた。

④③の取り組みに並行する形で、介護請求の基本の流れを確認、共有する機会をつくることはできた。他事業部の請求業務に携わる機会は設けられなかった。

⑤LIFE導入による記録取扱をソフト業者より伝達を受け、加算取得に向けて、ケアの根拠証明に対して、事業部や他職種により、既往歴や薬剤など、登録情報の追加修正まで行うことができた。

## 6. 課題

（介護）

①②③⑥について、介護の水準と記録の整備を優先的に進めているため、工程表の予定、計画から大幅な遅れがある。①②③⑥の取り組み内容と積み残しに対しゴールを決め、来年度、協議検討していく。

①②③ゴール：次年度トライアル実施、11月人事考課での活用実施とする。

⑥ゴール：申し送りになる記録と必要記録の提示（引継ぎ、アセスメント・モニタリングの整合性の観点）から記録を整備、定着に繋げていく。

（相談）

①法人策定の確認表に基づく継続的实践はできたが、様式の整備については、介護報酬改定に伴う追加修正の該当する事業部が主導する形となり、共有機会や説明後の役割分担には参与したが、主導的に取り組むことはなかったため、予測し早い段階で協働しながら進める必要があった。

②下半期に入り、各相談支援職域メンバーが属する事業部の稼働率をコントロールしていく役割であることを認識できたが、連携し対策を検討する場がなかった。

③準備から開始までのスケジュール管理、開始までが大幅に遅れ、実践状況の分析から外部研修の計画が次年度の早い段階に組み入れる必要がある。



④所属外の介護請求業務に携われる機会を設けられなかったことが積み残しとなった。

⑤負担軽減方法の導入と実践状況のモニタリングが積み残しとなった。

(看護)

体制状況により進捗経過なし

## 7. 事業計画

(介護)

定期：介護基本水準の確立、OJTによる技術指導体制の確立、介護基知識と習得体制の確立

不定期：記録の整備、レク・リハの提供状況の確認と修正、介護実習生の受入、

(看護職域)

定期：記録の整備、多職種連携

不定期：データ整理

(相談支援職域)

定期：①利用手続Ⅰ～Ⅳ、②稼働率管理（ベットコントロール）

不定期：③対人援助技術向上（セルフマネジメント・OJT・相談員同士の連携）

④育成・相談援助技術・処理スキル、⑤多職種連動による記録

## < 総合ケアマネジメント機関 >

### 1. 構成メンバー

工藤恵子 菊地のぞみ 森山玲香 田中良子 白戸富士子

### 2. 目的

総合相談機能並びに支援機能の管理

### 3. 期間 2021. 4. 1～2022. 3. 31

### 4. 内容

①総合相談の流れ、総合ケアマネジメント機能の確立

②地域と繋がる実践事業の取り組み

③入所意向確認から入所判定会議並びに利用等に係る判定会議

### 5. 成果

・判定会議を多職種（栄養士を含む）による開催の定着を図った。

・入所申込手続きを新型コロナウイルス感染症もあり、手続きを書面（FAX）での回答方式を取入れ、各居宅支援事業所やサービス事業所の協力をもあり、機関等短縮を図れた。

・申込みに係る意向調査（待機者）の定期実施により、登録者の増減状況の把握を図れた。

・各団体の定期交流（民生委員、住民サロン支援など）は、新型コロナウイルス感染症の状況により、一部中止があったが交流は継続できた。

・お客様の声の扱いをリスクマネジメント委員会と協議し、フローチャートを見直し整備した。

### 6. 課題

・入所申込はコロナ禍及び職員体制の状況により、実態調査が予定通り実施できず、申込から待機者の移行を進められないこともあるため、方法の検討が必要。

・相談受付から利用に至る手続きについて、書類の取扱いや保管までが確認がしづらいため、改善が必要。

・動向調査においては、稼働率を集計、周知するに留まり、その後の分析、展開に至らなかった。（各事業へのアプローチや全体での協議不足）

・直接お会いする機会が少ない状況下のため、お客様の声が少なく、サービスの改善や見直しの機会につなげられなかった。

・意向調査後の各整理に時間がかかり過ぎ、把握にとどまり、分析まで至らず、内容見直しの検討する必要。

### 7. 事業計画

・利用判定会議の運用管理（多職種連携と特性発揮）

・動向調査による意向確認の継続実施と利用相談種別、家族構成、身体（介護レベル）による分析

・総合相談窓口機能の運用管理（ベットコントロール、利用調整、橋渡調整機能）

・地域支援事業管理（地域包括ケアに沿った総合事業サービス開発、地域課題への支援）

・各福祉団体との交流（相談しやすい関係作り、地域住民のニーズ把握、地域福祉へつなげる）

## < 広報活動支援機関 >

1. 構成メンバー  
佐藤 久子 葛西 夏紀 村岡 あつみ 種市 祐子
2. 目的  
介護・福祉サービスに係る事業活動の周知広報
3. 期間 2021年4月1日～2022年3月31日
4. 内容 五つの「わ」の広報企画、作成、HP 運営管理
5. 成果  
①手順書作成を9月「HP ご家族様専用ページ編集手順」11月「PDF 貼り付け手順」3月「ホームページ追加項目手順書」の3つを作成する。ただ、「HP ご家族様専用ページ編集手順」、「ホームページ追加項目手順書」は完成まで至っていない。  
②写真公開の同意書については、再度、同意書を送付し、整理、整備する。  
「ほのぼの」内の基本情報へ 写真公開 ○ 又は 写真公開 ×  
③「さぽーたーず」、「わ」のカフェとのLINE 葛雍の情報発信に向けた情報交換については、職員状況、感染状況等により実施できずにいるため、活動目的を理解し、広報機関として役割を發揮できなかった
6. 課題  
・ 広報誌、ホームページのリニューアルについて検討が必要（職員会議からのご意見）  
・ 「さぽーたーず」「わ」のカフェと、互いの活動目的を理解し、タイムリーな情報発信に向け広報機関として対応する必要がある。  
じていく。
7. 事業計画  
①ご家族様専用ページの毎月更新  
②広報誌発行（5、8、11、2月）  
③広報誌ご家族様アンケート  
2022年度 在宅事業部、2023年度 特養事業部、2024年度 地域事業部  
④写真同意書の整理（年2回）  
⑤ホームページ随時更新

## < 「わ」のカフェ >

1. 構成メンバー  
齋藤美子 竹内彩花 齋藤亜也子 八戸序季
2. 目的  
認知症高齢者、家族、住民への認知症の理解と支援（地域貢献）
3. 期間 2021年4月1日～2022年3月31日
4. 内容  
・ 周知活動（チラシ、ポスター作成、広報誌掲載など）  
・ 年間運営計画作成、実施、評価検証  
・ 認知症地域支援推進委員との連携
5. 成果  
・ 周知活動  
周知活動として、ホームページの更新、定期参加者へ向け「わ」のカフェ通信と広報誌の発行をしたことにより、紹介や介護相談があり定期参加に繋がっている。  
地域住民、法人内職員（一般市民として参加）を対象に、認知症サポーター養成講座を開催し「認知症についての知識や対応について」「自分がその場面に直面した時は声を掛けてみよう」など、学ぶ機会を持った。認知症カフェの活動とは別のものではあるが、「わ」のカフェの存在を伝えることができた。  
・ 年間運営計画作成、実施、評価検証  
新型コロナウイルス感染症により、感染状況を踏まえ、ソーシャルディスタンスに配慮し時間短縮の開催とした。昨年度実施できなかった移動カフェを今年度は、六郷地区で2回開催し、民生委員や

地域住民に対しての周知協力もあり、地区の方が参加し、その中から松の湯交流館での「わ」のカフェに参加に繋げることができた。

- ・黒石市認知症地域支援推進員との連携強化（定期的な会議、情報共有に向けた取り組み）  
毎回、認知症カフェ開催後に、黒石市認知症地域支援推進員と実施について意見交換の実施をしている。カフェ開催にあたり、コロナ渦での開催内容や講座内容について情報共有をした。  
3月には報告会を実施し、2021年度の開催内容の振り返りや今後の課題について話し合いを行った。

#### 6. 課題

- ・法人内外への周知をしているが、認知症が重度化になってからの相談が多く、初期段階からの相談や集う場所への案内等、他関係機関や居宅支援事業所へのアプローチが不足している。

#### 7. 事業計画

- ・運営計画の明確化と共有、評価検証の実施
- ・認知症を抱える本人・家族の支援
- ・移動カフェの実施

### <さぼーたーずくらぶ「Heart」>

#### 1. 構成メンバー

畠山早紀子 千葉綾乃 工藤珠稀 八戸序季

#### 2. 目的

地域社会、世代間交流の促進、法人の事業の理解と相互、共助、自助の支援（地域貢献）

#### 3. 期間 2021. 4. 1～2022. 3. 31

#### 4. 内容

- ・さぼーたーずくらぶ「Heart」の活動実施
- ・ボランティア対象者の振り分け
- ・「わ」ど「な」の通信の発行と周知活動計画

#### 5. 成果

- ・移動カフェ開催にあたり、地域包括支援センターから講話の提案を頂き、外部講師による講座の企画をする。当法人の栄養士による講座や法務局による自筆証書遺言書保管制度や、黒石警察署安全課による特殊詐欺についての講座を開催したことで、今年度で双方との繋がりができた。
- ・ボランティア実施前のオリエンテーションは定着することができた。また、スタッフによるミニ講座は、高齢者についての理解の講座を導入し、ボラティアのしやすさを図った。
- ・法人内職員（一般市民として参加）及び地域住民を対象に、「認知症の知識や対応について」「自分がその場面に対面した時は声をかけてみよう」など、認知症サポーター養成講座を、「わ」のカフェと共同で企画、開催し、地域に向けて周知する機会となった。
- ・ボランティアの理解と周知を図るため、地域の清掃活動を企画したが、コロナ渦にて延期としている。「わ」ど「な」の通信は年4回作成し、さぼーたーずくらぶ「Heart」の登録者へ継続して送付している。

#### 6. 課題

- ・地域で活動している老人クラブなど、社会資源の活用や法人内部外部への情報発信が不足している
- ・さぼーたーずくらぶ「Heart」会員やボランティア活動の目的と理解の発信が不十分である

#### 7. 事業計画

- ・さぼーたーずくらぶ会員登録から活動当日受け入れまでの体制整備
- ・外部協力者の拡大